

ゆらの通信

Vol.11

平成22年5月

2010年5月、菜の花・藤・アケビ・リンゴ・ブルーベリー他無数の花が咲いて、森中が香り、この春4つに増えたミツバチの巣箱からはたくさんの働き蜂が飛びたっています。

2009年は「由良野の森の本」出版直後でもあり、たくさんの方が由良野の森に足を運んでくださいました。多くの皆様とご縁をいただき、たくさんの刺激や学びをいただきました。ご縁を頂いた皆様にお礼を申し上げます。

2009年冬～2010年春の出来事

2009年11月4日 彩雲 2010年4月26日 彩雲と日輪

彩雲や日輪を見たのは今回が初めてです。外作業していても空を見上げないと気付くことはなかったかもしれません。天候が崩れる予兆とか…。自然現象とはいえ、あまりに美しい光の芸術にしばし時を忘れました。



2009年11月4日



2010年4月26日



2009年11月8日 第7回ゆらの人間学講座

宮下智恵子氏を講師にお迎えし、「木とつきあう智恵」（月のリズムが木材を良質にする）と「いのち」のつながりをお話いただきました。ドイツで薬学を学び薬の研究をしながら、感じたことや智恵。村上光照老師との出会い、本の翻訳を通して知った木材の新月伐採の素晴らしさ、月のリズムと植物の生態、いのちを大切にすることということ。宮下さんの人柄から染み出てくる優しさに包まれながら、木（植物）とつきあう智恵を授かりました。資料ご希望の方は事務局までお問合せください。



2009年11月8日 第34回こども森林博士号講座

今回は「山芋を掘って食べてみる」講座は大人気。スコップやツルハシをもって自然薯の蔓を見つけて自力で掘っていきます。もちろん大人もこども博士たちもほとんどが初めての体験。折れやすい、細い、深い、ドロだらけ…でも家族で協力して掘った芋に大満足。講座終了後みんなで少しずつ分け合って野趣あふれる味を堪能しました。



2009年11月17日 井戸掘り

早魃が続くと生活水が涸れてしまう由良野の森。何とかしたいということで井戸を掘って水探しをしました。どうやって掘るかというと、写真右の先端工具が土と岩を削り貫いていきます。何日もかかって掘り進みましたが、思ったような水脈はなく断念。しかし穴を掘って以来現在まで、本当に雨がよく降り始めました。「気持ちは」天に届いたようです。



2009年12月3日 陸稲籾摺り

由良野の森で2回目の陸稲作り。前回は虫食いがかなり多かったのですが、今回はご覧の通り虫食いなしに立派にできました。今回は、もち米「ゆめのはたもち」だけでなく福岡自然農園の「ハッピーヒル」も少し混ぜて植えていました。次回はどんなお米になるのでしょうか？交雑したはずの新種「ゆらの」の味はいかに…?! 今年が楽しみです。



2009年12月5日 蜃気楼の市場

蜃気楼のように現れ消えてゆく市場のイメージで、森に忽然と1日だけ現れる市場。由良野の米での餅つきを初め、色々なお店で賑わいました。自然農法の野菜や柚子・砥部焼・竹とんぼ作り・石と木の彫刻・楽健。午後には 工房天月にて「懐かしい未来」の上映会。懐かしい風景の中にある私たちの未来について話がはずみ、交流も深まりました。



すっかり日の暮れた森で、ステージはゲストハウスに移動。夜の部は「KURI」によるライブ。夏のトリニティルーツ・ライブで参加した「カツさんとミホさん」のユニットが、最新CDの「蜃気楼の市場」からの楽曲演奏を中心に素敵な音楽にひたりました。彼らがフィリピンの山岳民族の村に招かれ演奏をした時のお話をスライドと共に話を聞いたあと、エスニックなギターと笛のメロディーを楽しみました。この夏トリニティルーツで由良野の森に再訪?!の企画中です。乞うご期待。



2009年12月26日 リンゴの木を植える。

会員で久万高原・畑野川でリンゴ園をされている青木さんからリンゴの木を頂きました。アルプス乙女と陽光2本。春になって白い花がたくさん咲きました。目の前のミツバチも大喜び！フクロウ用の巣箱が設置されているのは陽光です。



2010年1月17日 キツネ発見！

朝早く2階の窓から外を見て「キツネ!？」と大騒ぎ。丁度りんごを植えたあたり…。何かモグラかネズミを探している様子です。以前から由良野では目撃例はあったものの写真に撮れたのは今回が初めて。しばらく辺りを歩いた後、山の方へ消えていきました。この冬から春にかけて30羽いたニワトリは17羽に減っています。さてはキツネのお世話になったかな？



2010年3月10日 大雪

朝起きたときにはほとんど降っていなかったのに、夕方には積雪60センチ。一日でこんなに降ることはこの辺りでは珍しいことです。しかも重たい湿った雪。次の日から休校になった子どもたちと必死で家族総出の雪かきをしました。



2010年4月4日 第35回こども森林博士号講座

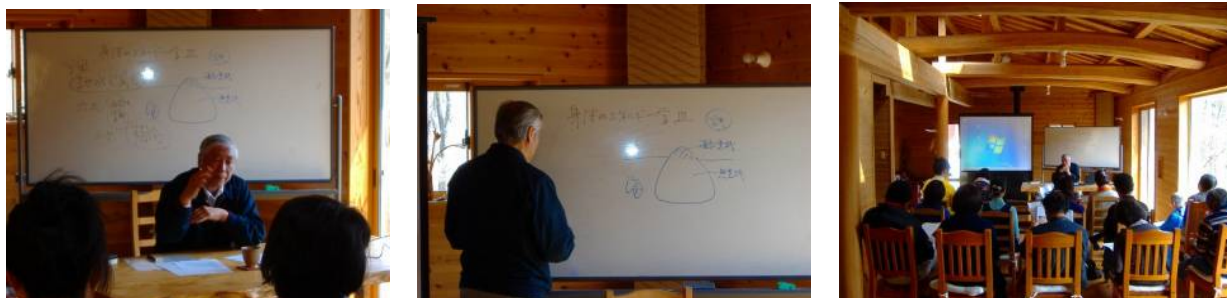
春には恒例になった、しいたけ原木の駒菌入れ。共生林の雑木林から切り出してきたクヌギにどんどん穴を開け、次々駒菌を打っていきます。こども博士たちは、いつもは大人だけでやっていたドリルでの穴あけ作業も体験。作業の後、とれたての原木しいたけをみんなでいただきました。



天日干しの干しいたけは、工房天月で販売しています。

2010年4月4日 第8回ゆらの人間学講座

光明内科胃腸科クリニック院長 清水秀明氏の3回目の講座で、身体のエネルギー学Ⅲ「感じる脳」。結論を最初に言っていただきました。「われわれは無意識的につながっており、無意識で行為している」「脳で認識しているのは氷山の一角で、伝統医学はそれをよく体現している」ということ。とても面白い内容でした。由良野の森に当日の動画や資料があります。聞き逃した方も「もう一度！」という方も事務局へお尋ねください。これ必見です。



2010年4月11日 第5回大人のための森林講座

共生林担当の山本栄治さんがすすめている、内子町小田深山のブナ林再生地に行きました。前回大野ヶ原のブナ林の見学に行ったときに分かったように、ブナ林はブナだけで成り立っているのではないので、まず植えたのは由良野で育てたトチとモミの苗。100～300年くらいはかかる再生ブナ林作りもこういった地味な作業から始まります。この秋にはブナの実を集めて苗作りをします。



2010年4月12日 縄文時代草創期の有舌尖頭器と鑑定

昨年の春開墾中に発見した石器が、愛媛県埋蔵文化財調査センター調査員の鑑定により1万3千年から1万1千年前の縄文時代草創期の有舌尖頭器であることが分かりました。ここがそんなに昔から人々が豊かに暮らした場だった証拠です。ほぼ完全な形で発見されるのは珍しいらしく、地元愛媛新聞にも紹介されました。事務局で実物を保管しています。これをきっかけに地元小学校と松山市考古館による「地域発見」事業に由良野の森も関わることになりました。



2010年5月2日 第36回こども森林博士号講座

今回は「春を探そう」。(食べられる雑草は天ぷらにして食べてみよう!)ということで、たくさん大人の参加もありました。春を探そうというよりも「春の食材探し」といった感じになりましたが、それはそれで生活に直接役立つ大変すばらしい体験学習。天ぷらは森の枯れ木を燃やして炭火を作り、100%由良野産バイオマスエネルギーを使用。おいしい自家製天つゆでドンブリにいただいた山菜は、ほろ辛い春の味でした。



ゆらの事務局より

昨年春、共生林担当の山本栄治氏が保全活動部門で「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰を受賞されました。共生林での地道な活動から目が離せません。また今年からは、里山再生保全作業を会員の皆さんと一緒に展開して行きたいと思っています。ぜひ6月6日の総会にご参加ください。6月中旬には桑の実も楽しめそうです。森で皆さんをお待ちしています。